

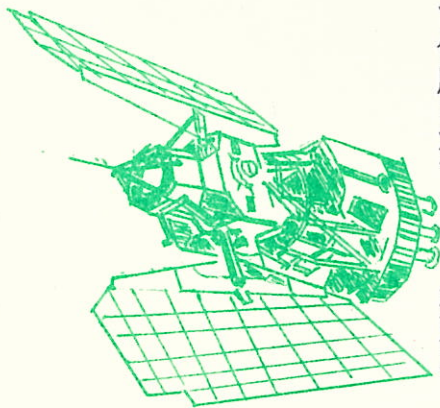
人工衛星 リモートセンシング 衛星画像地図 勉強会を開く

科学技術の最先端をいく人工衛星リモートセンシングデータを使った「屋久島森林環境保全のための衛星画像地図」の試作品が完成し、このほど営林署・鹿児島県屋久島事務所、上屋久・屋久町、民間等関係機関の職員が集まって勉強会を開きました。

当日はリモートセンシング技術センター研究部長田中総太郎先生ほか二名の講師がわざわざ来島され、リモートセンシングの仕組み、衛星画像地図の見方、画像地図の活用方法等について詳しく説明されました。

衛星データとしては、ランドサットTMデータを利用して三〇m×三〇m四方の面積を単位として地上からの電磁波を七バンドに分けて受信されそれぞれを強弱をコンピュータで処理して、画像として再現されるものです。

この画像地図は、屋久島固有林図と同縮尺の五万分の一で作成されており、林班界、



県道・林道、河川等が書き入れられ、良く晴れた日に宇宙から人間の目で高倍率の望遠鏡で屋久島を覗いたように見えます。海岸線から山頂部までの森林の状況、田畑、宅地等屋久島の土地の利用状況が一目で分かります。

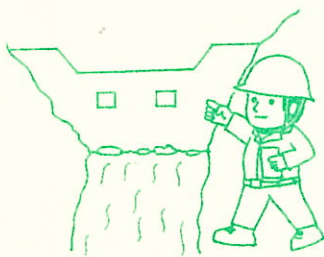
田中先生は、世界各地には屋久島と良く似た独立峰がたぐさんあるので各国のデータを集めて屋久島から世界に発信して欲しいと結びました。

請負事業体を安全パトロール

このほど熊本林業土木協会の主催による安全パトロールを実施しました。

当日は、屋久島営林署、保全センター、請負事業体五社の代表が参加して林道新設、治山工事現場において点検項目によりチェック等を行いました。

点検の結果はおおむね良好でしたが、緊急連絡体制の一



部不備、救急薬品の不足等があったので善処方を望みました。

最後に、屋久島固有林における土木治山工事は最盛期を迎えており、今日まで無災害を継続中ですが、これからもお互いに各種安全基準等を守り、明るく楽しい職場づくりに努力することを確認して終了しました。

屋久島の植物



サクラン
(カガイモ科)

葉がつばきに似ていることから屋久島ではつばきらんとも呼んでいる。多肉な多年生のつる草で茎は樹幹や岩面をはい、葉はだ円形で厚く光沢があり有柄で長さ五〜十cm、中三〜五cm、花は六〜十月頃葉腋に繖形花序を作つて多数つき、淡紅白色で径十二〜十五mm、花冠の

屋久島の森林生態学

東京にある東洋工学専門学校（佐藤大七郎校長）建築工

科の屋久島実習が二四日から開始され、保全センターは、二五・二六日の両日白谷雲水峽をフィー



これは屋久島の自然環境と人間の利用を学習する目的で保全センターに依頼されたもので、

ルドに森林教室を担当しました。

昨年に引き続き二回目の実施となりました。

初めに、センター会議室でセンター所長が屋久島の概要と保全センターの業務等について説明しました。

その後、白谷雲水峽内を保全センター職員が案内し、樹木や植物の名前、自然休養林の利用のあり方などについて指導しました。

実習生は、全国各地の出身で、屋久島と内地との林相の違い、屋久杉の生命力、屋久島の植物の多様性などに多くの質問が寄せられ、関心の高さを示していました。

著名屋久杉を診断

内面は凸起毛が密生する。副花冠は星状に開出して光沢があり、袋果は線形で長さ十〜十四cm、中六〜七mm。九州南部以南に分布する。昨年開花を見かけなかったが、今年は保全センターの庭に美しい花をつけてくれたほか、林内のいたるところで咲いていた。

世界自然遺産保緊急対策事業として、屋久島の樹勢回復措置を行うことになり、早急に対策の必要な大王スギと翁スギについて、樹木医の先生方に、樹勢診断と必要な措置について検討していただきました。保全センターではその検討結果を受けて、樹勢回復措置を今年度中に実行することになっています。

集中豪雨襲来

台風二一号接近に伴い、屋久島では九月二六日〜三十日にかけて集中豪雨に見舞われ、各地で甚大な災害が発生しました。山地災害については、現在調査中です。

なお、この期間中の各観測点の降雨量はつぎのとおりでした。

保全センター	四一・一mm
白谷観測点	一七〇・六mm
宮之浦川源流	一八七・二mm